

3. 小児歯科来院児のう蝕罹患状態と口腔衛生指導

○ 青山由美子、毛利元治

(福岡市・もうり小児歯科)

私達の医院も開院後1年を経過し、来院患児も、800名を越えました。医療機関として、現在ある疾患を処置することは当然であります。一方では長期的展望に立って、疾患を発生した環境の改善を計らなければ、新たなう蝕や二次う蝕等の発生を見ることは明らかであります。

したがって担当する小児の口腔内の現状を把握し、それに即した対策を立てる必要があります。今回、この様な理由から、来院患児の主体を占める2～3才児に焦点を当て、初診時のう蝕罹患状態、口腔清掃状態、カリオスタット値等を調査しましたので、その結果について、若干の検討を加え報告致します。同時に、私達のうち蝕予防活動の一端を紹介し、諸先輩の御指導、御批判を受けたいと思います。

4. F C断髄の予後を追求してみても

○ 柏木伸一郎、(福岡市・柏木小児歯科)

井槌浩雄、天本礼子 (九大・歯・小児)

小児歯科臨床で頻繁に行なわれる処置に、F C断髄がある。その予後に関する報告は数多く発表されているが、成功率に重点がおかれているように思われる。その情報を臨床にいかに応用するかという点に関しては、あまり考察がなされていないようである。そこで今回、当院でのF C断髄の予後を調査すると共に、その結果をこれからの臨床にどのように活かしていったらよいか検討したところ、2～3の興味ある知見を得たので報告する。